



国重文津南町堂平遺跡
(文化庁所蔵)

火焰型土器とは、

縦横に渦巻く造形が燃えさかる炎を連想させる縄文土器です。

5000 年前に生み出された日本文化を代表するカタチです。



国宝十日町市笹山遺跡

火焰型土器を

2020 年

東京オリンピック・パラリンピックの 聖火台に



国重文長岡市馬高遺跡



三条市長野遺跡



新潟市秋葉遺跡

火焰型土器は 1936 年に長岡市馬高遺跡で発掘された「火焰土器」に由来する名称です。馬高遺跡（国指定史跡）出土品や津南町堂平遺跡出土の火焰型土器や王冠型土器が、国指定重要文化財となっています。十日町市笹山遺跡出土の火焰型土器は、縄文土器唯一の国宝です。



信濃川火焰街道

信濃川火焰街道連携協議会

新潟市 三条市 長岡市 十日町市 津南町

<http://www.kaen-kaido.com>

【問い合わせ先】

三条市市民部生涯学習課（事務局）

〒955-0072

新潟県三条市元町 13 番 1 号 三条市中央公民館内

電話 0256-47-0048

縄文土器が、1万5千年前の日本列島に登場したのは、人類史上における奇跡ともいべき大事件であった。とにかく、土器発明までの足どりがもっとも良く解明されている西アジアよりもざっと3千年以上も先駆けているのである。

やがて縄文土器は、縄文文化の表看板として北は北海道北方四島、南は九州からはるか南西海上の沖縄諸島にまで行き渡った。そしてあたかも方言ことばに似て、各地域毎に独特な様式が生じた。しかし、それぞれの地方色を超えて共通する注目すべき性格がある。それが口縁部に立ち上がる突起である。

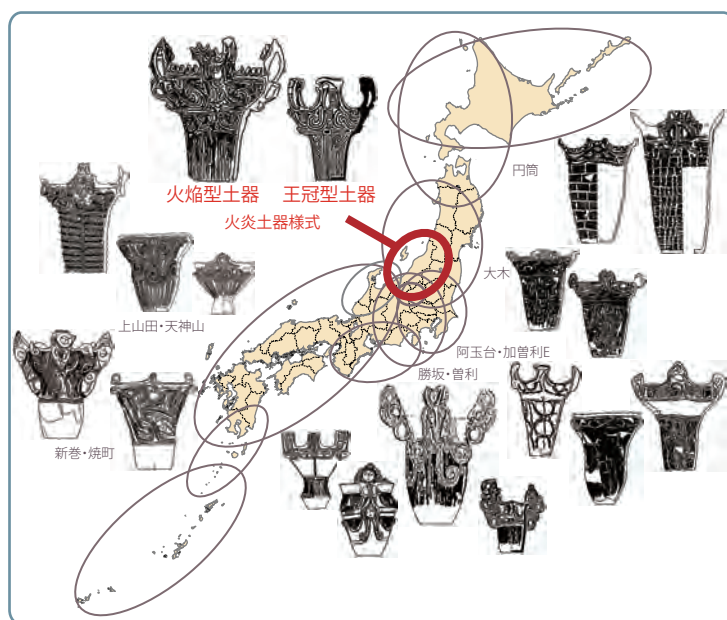
そもそも土器の本分は、容れ物としての機能であり、必要十分な容量が確保さるべき存在である。それ故、口縁を飾る突起は、土器の使い勝手に直接関わるものではないのだ。つまり人目を魅く大仰な突起といえども、実は文字通りの無用の長物以外のなにものでもない。むしろ役に立たないどころか、モノの出し入れの障害、邪魔にさえなるものである。しかも、汗水たらしてムラに運びこんだ粘土を相当量消費するばかりか、敢えて突起をつけるのに要する手間暇もばかにならない。だからこそ、古今東西のヤキモノに突起が一切見当たらないのも蓋し当然のなりゆきである。まさに縄文土器だけの特別な主張なのである。

この事実、縄文土器の突起はカタチのデザインの問題ではなく、縄文人の世界観に関係するものであったことを示唆している。つまり、縄文土器は単なる容器にとどまるものではなく、縄文人が心に抱くことどもを体現しているのである。

その火焰型土器が所属する縄文文化は日本文化の源流であり、日本文化の歴史の中に組みこまれた厳然たる存在である。その意味では火焰型土器は、浮世絵や歌舞伎とともに、日本文化そのもののなのである。

かくて、火焰型土器を2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に昇華するべきであるという提案は、日本文化の意志を国際舞台に発言することにほかならないのである。

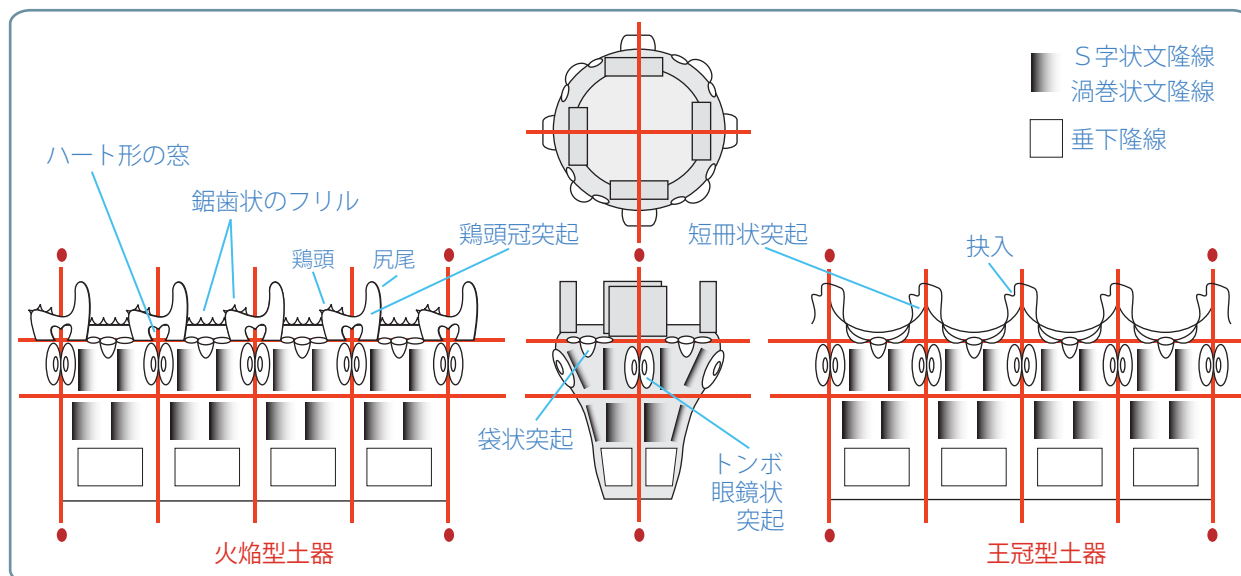
新潟市、三条市、長岡市、十日町市、津南町で構成する信濃川火焰街道連携協議会は、2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に、「火焰型土器」の造形をここに提案し、その実現にむけて活動することを宣言する。



縄文時代中期（約5000年前）の縄文土器の主な様式



火焰型土器と王冠型土器の発見された主な遺跡



火焰型土器と王冠型土器 文様構造と各部位の名称